

## 研究に関する情報公開文書

研究課題名：高悪性度胃・大腸癌におけるアセチルコリン・ドパミン関連蛋白の免疫組織化学的発現解析

本研究は大和会の倫理委員会で審査され、理事長の許可を得て実施します。

### 1. 研究の対象

2002年1月～2022年1月に東大和病院で胃癌または大腸癌の手術を受けられた方

### 2. 研究目的・方法・研究期間

#### （研究目的）

$\alpha$ -フェトプロテイン（AFP）という腫瘍マーカーを産生する胃癌（AFP産生胃癌）および神経内分泌への分化を示す胃癌・大腸癌（胃・大腸内分泌細胞癌）は悪性度が高い稀な腫瘍です。一方、アルツハイマー病、パーキンソン病や統合失調症ではアセチルコリン、ドパミンといった神経伝達物質の生合成、作用や分解に異常があります。近年、アセチルコリンやドパミンの作用・分解に関連する蛋白が癌細胞の増殖、浸潤等に関与している可能性が報告されています。そこで本研究では、AFP産生胃癌、胃・大腸内分泌細胞癌のような高悪性度癌におけるアセチルコリン・ドパミン関連蛋白の発現が、通常型の胃・大腸癌とは異なる可能性を探索します。そのために、アセチルコリン・ドパミン関連蛋白の免疫組織化学染色を実施し、AFP産生胃癌および胃・大腸内分泌細胞癌における発現パターンの特徴を明らかにします。

#### （方法）

手術切除された胃癌および大腸癌の病理組織標本の薄切切片を作製し、アセチルコリン・ドパミン関連物質の免疫組織化学染色を実施します。その結果について、AFP産生胃癌および胃・大腸内分泌細胞癌と通常型胃・大腸癌との比較、臨床病理学的所見（年齢、性別、病期、深達度、脈管侵襲、リンパ節転移、腫瘍マーカー測定値など）との関連を検討します。本研究は後向き観察研究であり、また介入研究ではないため、対象患者さんに特別なことを行っていただく必要はありません。

#### （研究期間）

倫理委員会および理事長が承認した日～2026年3月31日

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、病期、病理診断名、病理組織学的所見（深達度、脈管侵襲、リンパ節転移等）、腫瘍マーカー測定値 等

試料：手術切除後に作製された病理組織標本

#### 4. 個人情報の取り扱い

個人情報の漏洩を防止するため、すべての記録や資料は研究者のみが利用できるよう、研究責任者が施錠可能な場所に保管します。また、個人情報とは無関係の整理番号をつけて管理します（対応表によって匿名化します）。さらに、コンピューターの起動時と保存ファイルにはパスワード保護を設定します。

#### 5. 外部への試料・情報の提供

共同研究機関である神戸大学大学院保健学研究科へ病理組織標本の薄切切片を送付し、免疫組織化学染色を行います。その際、個人情報とは無関係の整理番号のみで取り扱います。

#### 6. 研究組織

研究責任者：東大和病院 病理臨床検査センター センター長 桑尾 定仁

共同研究者：武蔵村山病院 病理診断科 副技師長 島方 崇明

共同研究者：東大和病院 病理細胞診断科 技師長 河村 淳平

共同研究機関・共同研究者：

- ・神戸大学 大学院 保健学研究科 教授 鴨志田 伸吾
- ・神奈川県立足柄上病院 検査技術科 大金 直樹

#### 7. 除外の申出・お問い合わせ先

試料・情報が本研究に用いられることについて、研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合には、研究対象から除外させていただきます。下記の連絡先までお申し出ください。研究対象からの除外をお申し出になった場合でも、研究の対象となる方や関係者の方に不利益が生じることはありません。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができますのでお申し出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

東大和病院 病理臨床検査センター

担当者：桑尾 定仁

住所：〒207-0014 東京都東大和市南街 1-13-12

電話：042-562-1411（代表）